

2015年3月

●2014 年度福島シンポジウムで講演（2015年3月1日）

3月1日(日)、「福島原発災害からの生活・地域の協働再生の途を探る」というテーマのシンポジウムが福島県青少年ホールにて開催されました。このシンポジウムを主催したのは農村計画学会で、2012年から5年間に亘る科研費による取り組みです。シンポジウムの第1部は、「被害実態と再建・再生の途」、第2部は、「主体と手法の新たな協働再生の展開」というテーマで報告や講演がありました。第2部は、「かーちゃんのカ・プロジェクト」の大黒太郎氏、飯館村・匠塾の菅野哲氏、霊山プロジェクト現地代表の大沼豊氏(題名は、「専門家の支援によるメタン発酵エネルギーによる地域再生」)、会津電力株式会社社長の佐藤彌右衛門氏の4人の方から取り組みの発表がありました。また、第3部は発表者全員によるパネルディスカッションで今後の課題などの意見交換がありました。シンポジウムの参加者は約50名で、学会の会員だけでなく一般市民も参加していました。



第2部で講演発表中の大沼豊氏



第3部で発言中の大沼豊氏

●新しい東北 官民連携推進協議会(2015年3月7日)

復興庁の「新しい東北」として数々の取組みを進めておりますが、地元名産の発信活動として、3月7日小国地区交流館で、料理研究家国分喜恵子先生の指導による料理教室が開催され地元の主婦が総出でさんまの大豆まぶし焼き、大豆とごぼう入り肉そぼろ他(写真上段左)を、埼玉県小川町から戴いた青山在来の大豆を霊山で栽培したもので調理し参会者で美味しく戴きました。その後「顆粒大豆その不思議な力に魅せられて」の講演(写真上段右)もして戴きました。

次に柳川町の白根里つくり推進協議会引地弘一様によるモロコシ作りの講演があり、モロコシの生産、それを応用した食品の苦労話があり(写真下段左)、大いに参考となりました。

また、(株)NuSAC 代表の常盤井守泰様の柿の木幹巻き除染の中間報告の講演がおこなわれました(写真下段右)。

